

PAT-NO: JP410337122A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10337122 A

TITLE: WATERING IMPLEMENT FOR FLOWERPOT

PUBN-DATE: December 22, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
IMAI, HIROKO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
IMAI HIROKO	N/A

APPL-NO: JP09185696

APPL-DATE: June 6, 1997

INT-CL (IPC): A01G009/02, A01G009/04, A01G027/06, A01G027/02,
A01G027/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a watering implement used for a flowerpot, capable of always supplying water to soil in the flowerpot by a capillary phenomenon to prevent the dryness of the soil in the flowerpot.

SOLUTION: 1. In flowerpot type container made from an arbitrary raw material and having a larger diameter than the diameter of a flowerpot, the bottom portion of the flowerpot type container is partially pressed up to form a flowerpot table 1 enabling to load the flowerpot thereon and also form a

water reservoir 2 used for supplying water to the flowerpot. 2. A fenestrated expanded member 4 having a sharp tip capable of being thrust into the soil of the flowerpot is formed at the tip of a flexible cylindrical main body 3, and a water-absorbing material 5 capable of absorbing water by a capillary phenomenon

is inserted into the flexible cylindrical main body 3 and the fenestrated expanded member 4 to form a water-guide member 6. 3. The above-mentioned

articles are combined with each other and used.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-337122

(43)公開日 平成10年(1998)12月22日

(51)Int.Cl.⁶

A 01 G 9/02
9/04
27/06
27/02
27/00

識別記号

506

F I

A 01 G 9/02
9/04
27/00

506
502D
505B

F

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全3頁)

(21)出願番号

特願平9-185696

(22)出願日

平成9年(1997)6月6日

(71)出願人 597098578

今井 裕子

北海道札幌市中央区北1条西22丁目1番21
号

(72)発明者 今井 裕子

北海道札幌市中央区北1条西22丁目1番21
号

(54)【発明の名称】植木鉢用給水器具

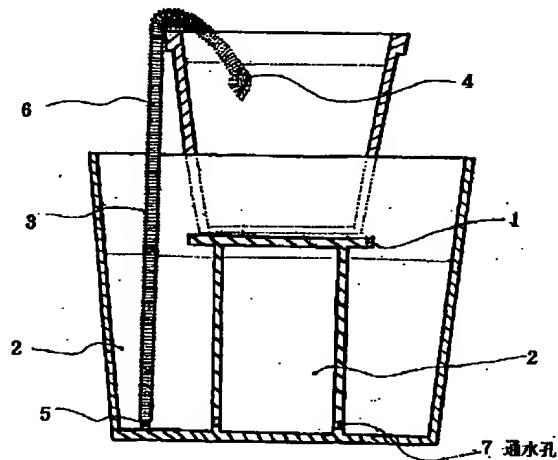
(57)【要約】

植木鉢内の土に毛細管現象により常時給水でき、植木鉢内の土を乾燥状態にさせない植木鉢用給水器具を提供しようとするものである。

【課題】植木鉢に給水をするには、予想外に人手をするもので、忙しさに紛れて給水を忘れてしまうことで、植物を枯らしてしまうという問題もあった。

【解決手段】1. 任意の素材からなる植木鉢の直径より大きな直径を有する植木鉢型容器において、該植木鉢型容器の底の一部分を押し上げて、植木鉢を載置できる植木鉢台と、植木鉢に給水する貯水部を成型する。2. フレキシブル筒状本体の先端に、植木鉢の土に刺さる尖った先端を有する開窓膨張体成型し、このフレキシブル筒状本体並びに開窓膨張体の内部に毛細管現象により水を吸い上げる吸水体を挿通させて水誘導体を成型する。

3. 上記を組み合わせて用いることを特徴とする。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 1. 任意の素材からなる植木鉢の直径より大きな直径を有する植木鉢型容器において、該植木鉢型容器の底の一部分を押し上げて、植木鉢を載置できる植木鉢台(1)と、貯水部(2)を成型する。
 2. フレキシブル筒状本体(3)の先端に、尖った先端を有する開窓膨張体(4)成型し、このフレキシブル筒状本体(3)並びに開窓膨張体(4)の内部に吸水体(5)を挿通させて水誘導体(6)を成型する。

3. 上記の1、2を組み合わせて用いることを特徴とする植木鉢用給水器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、植木鉢に給水を施すのに人手を要することなく、自然の力により給水ができる植木鉢用給水器具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】植木鉢に給水をするには、予想外に人手を要するもので、鉢の中の土の保水状態を調べて行わなければならない。また忙しさに紛れて給水を忘れてしまうことで、植物を枯らしてしまうという問題もあった。更には家族揃っての旅行などで、家を一定期間留守にするような場合には、特に心配になって留守にはできないというような問題もあった。しかしに植木鉢に給水する適切な植木鉢用の給水容器は見当たらなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】植木鉢で栽培する植物は、ベランダなど身近なところで鑑賞できることから人気があるが、これを栽培育成するには相当な努力や労力が伴うものである。とりわけ給水する作業は、栽培している植物の生死に結びつくだけに重要であり、日々注意を払わなければならないものであった。本発明は上記の課題を解決するためになされたものであり、その目的とするところは、植木鉢内の土に毛細管現象という自然現象により常時給水でき、少なくとも十数日間は手をかけなくても植木鉢内の土を乾燥状態にさせない植木鉢用給水器具を提供しようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明における植木鉢用給水器具は、下記のような構成としている。

1. 任意の素材からなる植木鉢の直径より大きな直径を有する植木鉢型容器において、該植木鉢型容器の底の一部分を押し上げて、植木鉢を載置できる植木鉢台1と、植木鉢に給水する貯水部2を成型する。
2. フレキシブル筒状本体3の先端に、植木鉢の土に刺さる尖った先端を有する開窓膨張体4を成型し、このフレキシブル筒状本体3並びに開窓膨張体4の内部に毛細管現象により水を吸い上げる吸水体5を挿通させて水誘導体6を成型する。

2

3. 上記の1) 2を組み合わせて用いることを特徴とする。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明になる植木鉢用給水器具の貯水部2に水を満たし、植木鉢を植木鉢台1の上に載置して、かつ水誘導体6の一端を貯水部2の中の水に浸し、先端の開窓膨張体4を植木鉢の中の土に埋め込む。この開窓膨張体4が土の中に刺さると、開窓部を有することから植木鉢の土が開窓膨張体4の中に入ってきて、吸水体5が土に触れることになる。土が吸水体5に接触すると、吸水体5から土に水が滲み込むことになる。このようにすることで、水誘導体6による毛細管現象により、貯水部2内の水が、植木鉢内の土に自然現象で常時滲むことになる。従って十数日間は手をかけなくても植木鉢内の土を乾燥状態にならない。

【0006】

【実施例】実施例について図面を参照に説明する。図1～2は、本発明になる植木鉢用給水器具の実施例で、図1は、一実施例の正面断面図である。本実施例では、任意の素材である合成樹脂素材で、植木鉢の直径より大きな直径を有する植木鉢型容器の底の内側の一部分を押し上げて、植木鉢を載置できる植木鉢台1を成型すると、残り部分の底は自ずと植木鉢に給水できる水を溜める貯水部2が成型されることになる。また水誘導体6は、フレキシブル筒状本体3の先端に、植木鉢の土に刺さりやすい尖った先端を有する開窓膨張体4を成型し、このフレキシブル筒状本体3並びに開窓膨張体4の内部に毛細管現象により水を吸い上げる吸水体5を挿通させて成型されている。その水誘導体6が、フレキシブル筒状本体3と開窓膨張体4で成型されていて、吸水体5を覆っているので、吸水体5で貯水部2の水を毛細管現象により吸い上げる際に、水の蒸発現象を防ぐと共に、フレキシブル筒状本体3は、フレキシブル構造なので、どのような形状にも曲がり、どのような植木鉢にもフィットするものになっている。またフレキシブル筒状本体3は植木鉢に密着することになるので、フレキシブル構造が美観を損なわない装いのものになっている。また吸水体5は水が給水浸透しやすい布や不織布などが適している。

【0007】本発明は、以上のように成型されているので、次のように使用することができる。本容器の貯水部2に水を満たした後、植木鉢台1の上に植木鉢を載置する。このようにセッティングしたところで、貯水部2内の水を植木鉢の中の土に給水するには、水誘導体6を用いて実施する。この水誘導体6の一端を貯水部2の中の水に浸すと共に、更に他端である尖った先端を有する開窓膨張体4(部)を植木鉢の中の土に埋め込んでやる。開窓膨張体4は、尖った先端を有するので植木鉢の土に難無く刺さる。更には開窓膨張体4が土の中に刺さると、開窓部を有する膨張体となっていることから、植木鉢の土が開窓膨張体4の中に入ってきて、吸水体5が土

3

に触れることになり、貯水部2から吸い上げられた水が土に滲み込むことになる。このように水誘導体6による毛細管現象という自然現象により、貯水部2内の水が植木鉢内の土に常時、滲み込むことになる。このようにすることで貯水部2内に水が有る限り、植木鉢の土が乾燥してしまうことによるトラブル問題は起こらない。貯水部2内の貯水容量は相当量あるので、最低でも十数日間は補水しなくてもよい。従って植木鉢が乾燥してしまわないかどうか、いつも神経質になって給水に気配りをしなくてもよく、家を留守にすることによる植木鉢への心配も解消される。

【0008】図2は、本発明の他の実施例の正面断面図である。この実施例では植木鉢型容器の底を、その中心部と外周部との略中間部の一部分を押し上げて、植木鉢台2を成型すると共に、その植木鉢台2によって仕切られた内側の底と外側の底の水を通水する通水孔7を設ける。この通水孔7を設けたことにより、植木鉢型容器の中心部も貯水部2として用いることができる。従って本実施例では、貯水部2の容量が大きくすることができ、長時間に亘って植木鉢に自然給水することができ、更には本実施例では植木鉢用給水器具への補水する回数も少なくてすむ。その他は前実施例と同様の目的や効果を発揮するものである。

【0009】

4

【発明の効果】本発明は上記のとおり構成されているので、次に示す効果を奏する。

1. 本植木鉢用給水器具は、その容器内に相当量の水を貯水でき、その水で植木鉢の中の土に自然な給水ができる、少なくとも十数日間は給水の手をかけなくても植木鉢内の土が乾燥状態にならないので、植木鉢で育てている植物を、乾燥させることで弱らせたり、枯らしたりする心配を減少させることができる。
2. 貯水部内の水が少なくなった頃を見計らって水を補給しておけば、自然給水が可能状態になるので、給水が極めて楽になり、家族揃っての留守にしても心配が無い。

【0010】

【図面の簡単な説明】

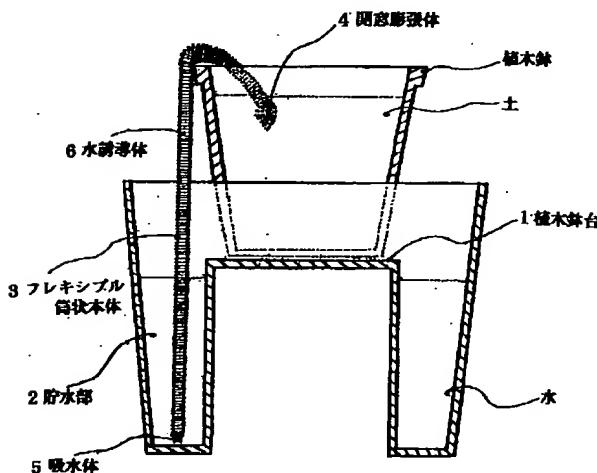
【図1】本発明の一実施例を示す正面断面図である。

【図2】本発明の他の実施例を示す正面断面図である。

【符号の説明】

- (1) は 植木鉢台
- (2) は 貯水部
- (3) は フレキシブル筒状本体
- (4) は 開窓膨張体
- (5) は 吸水体
- (6) は 水誘導体
- (7) は 通水孔

【図1】



【図2】

